

大学院学生に関する事項

1. 修了要件単位について
2. 研究指導について
3. 修士学位論文について
4. 博士予備論文について
5. 博士学位論文について
6. 長期履修学生制度について
7. 大阪大学の大学院教育システム
 - (1) 大学院教育システム構築の背景と目的
 - (2) 大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて
 - (3) 学際融合教育科目について
 - (4) コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目について

～*～

以下については、人文学研究科HPに掲載していますのでご覧ください。

- ◎ 人文学研究科 教育目標
- ◎ 人文学研究科 ディプロマポリシー
- ◎ 人文学研究科 カリキュラムポリシー

大学院学生に関する事項

1. 修了要件単位について

1-1. 修了要件単位一覧

博士前期課程

科目区分	修了に必要な単位数	履修方法等
高度教養教育科目	1	研究科共通必修科目「人文学基礎（現代の教養）」1単位を修得 ※「高度教養教育科目一覧表」に掲載されている高度教養教育科目から修得した場合は、自由選択枠に充当されます
専門教育科目	21	1.研究科共通必修科目「人文学基礎（人文学と対話）」1単位を修得 2.（人文学専攻のみ）所属するコースの「修士論文作成演習」（東洋史学分野においては「東アジア史リサーチ演習」を含む）2単位以上 上記を含み、研究科で開講する専門教育科目21単位を修得 ※所属するコースの推奨科目を1科目以上修得することが望ましい。 また、欄外の「専門教育科目についての補足」とおり認められることがあります。 <u>（注）必ず認められるわけではありません。</u> * 21単位を超えて修得した場合は、自由選択枠に充当されます。
高度国際性涵養教育科目	2	以下の科目から、2単位修得 ①人文学研究科共通科目で「高度国際性涵養教育科目」と指定されている科目 ②「高度国際性涵養教育科目一覧表」に掲載されている高度国際性涵養教育科目（毎年変更があるため一覧はWebページにて掲載） ③『開講科目一覧（注）』で「高度国際性」に○のついている講義科目（該当科目は、開講年度の『開講科目一覧』で確認。） * 2単位を超え修得した場合は、③は専門教育科目に、①②は自由選択枠に充当されます。
自由選択枠	6	「自由選択枠」として開講している科目は、ありません。 自由選択枠に算入できる以下の科目から、6単位を修得してください。 (1)高度教養教育科目の中で、1単位を超えて修得した単位 (2)専門教育科目の中で、21単位を超えて修得した単位 (3)高度国際性涵養教育科目の②で、2単位を超えて修得した単位
合計	30	

専門教育科目についての補足

在学中に、他の大学院又は外国の大学院で修得した単位（15単位まで）は、専門教育科目として認められることがあることがあります。
なお、必ず認められるわけではありませんので注意してください。

（注）『開講科目一覧』に掲載している人文学研究科人文学専攻、日本学専攻基礎日本学コース、芸術学専攻の科目を指します。

博士後期課程

科目区分	修了に必要な単位数	履修方法等
専門教育科目	8	以下を含む人文学研究科博士後期課程の開講科目より修得（各専門分野の修士論文作成演習2単位以上を含む）
合計	8	

修得を推奨する科目の一覧

人文学専攻博士前期課程の学生は、以下の自専門分野の中から1科目以上履修し、単位を修得してください。

人文学専攻

コース	専門分野	授業科目名	単位数
哲学コース	哲学史	言語哲学講義Ⅰ	2
		現代哲学講義Ⅰ	2
		現代哲学講義Ⅱ	2
	社会技術論	科学技術思想史講義Ⅰ	2
		科学技術思想史講義Ⅱ	2
	哲学臨床	倫理学講義	2
		倫理学演習Ⅲ	2
	中国哲学	中国哲学演習Ⅰ	2
		中国哲学演習Ⅱ	2
		中国哲学講義Ⅰ	2
		中国哲学講義Ⅱ	2
	インド学・仏教学	インド学・仏教学講義	2
インド学演習		2	
仏教学演習		2	
グローバルヒストリー・地理学コース	人文地理学	人文地理学講義Ⅰ	2
		地誌学講義	2
		地域文化空間論講義	2
		人間・環境関係論講義	2
	東洋史学	東洋史講義	2
		東アジア史講義Ⅰ-1	2
		東アジア史講義Ⅱ-1	2
		中央ユーラシア史講義Ⅰ-1	2
			2
	西洋史学	西洋古代史リサーチ演習1	2
		西洋古代史リサーチ演習2	2
		西洋古代史リサーチ演習3	2
		西洋古代史リサーチ演習4	2
		西洋中世史リサーチ演習1	2
		西洋中世史リサーチ演習2	2
		西洋中世史リサーチ演習3	2
		西洋中世史リサーチ演習4	2
		西洋近世史リサーチ演習1	2
		西洋近世史リサーチ演習2	2
		西洋近世史リサーチ演習3	2
		西洋近世史リサーチ演習4	2
		西洋近現代史リサーチ演習Ⅰ-1	2
		西洋近現代史リサーチ演習Ⅰ-2	2
		西洋近現代史リサーチ演習Ⅱ-1	2
		西洋近現代史リサーチ演習Ⅱ-2	2
		歴史学方法論講義(概論)	2

コース	専門分野	授業科目名	単位数	
文学コース	文学中国	中国文学講義Ⅰ	2	
		中国文学講義Ⅱ	2	
		中国文学演習Ⅰ	2	
		中国文学演習Ⅱ	2	
	文学英米	イギリス文化史講義	2	
		アメリカ文化史講義	2	
	テキスト表現論	ドイツ文学	ドイツ語学演習	2
			ドイツ語文学講義	2
		ドイツ語学	ドイツ語文学演習	2
			ドイツ語文学テキスト論演習	2
			ドイツ語文学・思想論演習	2
			フランス文学	フランス文学演習Ⅰ-1
	フランス文学演習Ⅰ-2	2		
	フランス語学演習1	2		
	フランス語学演習2	2		
	テキスト環境論	テキスト環境論講義	2	
		文学テキスト論講義	2	
		物語越境論講義	2	
		比較文学比較文化論講義	2	
		比較文学研究講義	2	
テキスト分析講義	2			
言語学比較・対照コース	英語学講義Ⅰ	2		
	英語学講義Ⅱ	2		
	英語史講義	2		
	英語音声学講義	2		

修得を推奨する科目の一覧

芸術学専攻博士前期課程の学生は、以下の自専門分野の中から1科目以上履修し、単位を修得してください。

芸術学専攻

コース	専門分野	授業科目名	単位数
美学・文芸学コース	美学	芸術学講義Ⅰ-2	2
		言語哲学講義Ⅰ	2
	文芸学	文芸学講義Ⅰ	2
		文芸学講義Ⅱ	2
		西洋古典学講義Ⅰ	2
音楽学・演劇学コース	音楽学	音楽学講義Ⅰ	2
		音楽学講義Ⅱ-1	2
	演劇学	演劇学講義Ⅰ-1	2
		演劇学講義Ⅱ-2	2
日本東洋美術史・西洋美術史コース	日本東洋美術史	日本美術史講義Ⅱ-2	2
		東洋美術史講義Ⅰ-1	2
	西洋美術史	西洋美術史講義Ⅰ	2
		西洋美術史講義Ⅱ-2	2
		西洋美術史講義Ⅲ	2
アート・メディア論コース	アート・メディア論	アート・メディア史講義	2

1-2. 修了要件単位一覧の補足説明

<博士前期課程>【1. カリキュラムについて】

カリキュラムは、「教養教育」、「専門教育」、「国際性涵養教育」の3つの柱からなります。
修了要件単位一覧と以下の補足説明を確認の上で、修了に必要な30単位を修得してください。

【2. 修了要件単位について】

1) 高度教養教育科目（1単位）

- 研究科共通必修科目「人文学基礎（現代の教養）」1単位を修得してください。
- 1単位を超えて修得した場合は、自由選択枠に充当されます（自由選択枠については後述）。

<重要：他研究科等科目の履修登録について>

- 他研究科等で開講される科目の履修登録期間は、人文学研究科科目の履修登録期間と異なります。履修登録期間はKOAN掲示板等で確認をしてください。
- 他研究科等で開講される科目の履修登録は先着順です。定員に達した時点で履修登録ができなくなりますので注意してください。
(※できる限り履修登録開始日に履修登録を行ってください。)

2) 専門教育科目（21単位）

- 研究科共通必修科目「人文学基礎（人文学と対話）」1単位を修得してください。
- 人文学研究科で開講されている科目から20単位を修得してください。
- 21単位を超えて修得した場合は、自由選択枠に充当されます。
(自由選択枠については後述)

3) 高度国際性涵養教育科目（2単位）

- 人文学研究科共通科目で「高度国際性涵養教育科目」として指定されている科目(①)、他研究科等で開講する高度国際性涵養教育科目(②)、『開講科目一覧表』の「高度国際」欄に「○」がついているの講義科目(③)、のいずれかから、単位を修得してください。
- 2単位を超えて修得した場合、③は専門教育科目に、①②は自由選択枠にそれぞれ充当されます。
例1：③で8単位修得 → 6単位を専門教育系科目の選択科目に充当できる。
例2：②で4単位修得 → 2単位を自由選択枠に充当できる。
- 同じ学期内に③と①②を修得した場合、①②が優先して高度国際性涵養教育科目に充当されます。
なお、一度確定された単位(科目の区分)は、変更できません。

4) 自由選択枠（6単位）

- 「自由選択枠」として開講している科目はありません。
- 修了要件単位一覧に記載されている(1)～(3)の科目から、合計6単位を修得してください。
- 成績証明書には、「自由選択枠」という表示はされませんので、KOANの履修成績や成績証明書により、各自で自由選択枠に充当できる科目を確認してください。

例：

- (1)高度教養教育科目から2単位
 - (2)専門教育科目から4単位
- 合計6単位

<注意> 単位は分割できません！

例えば、4単位の科目を修得した場合、2単位を高度国際性涵養教育科目、2単位を専門教育科目に分割して計上することはできませんので、注意してください。

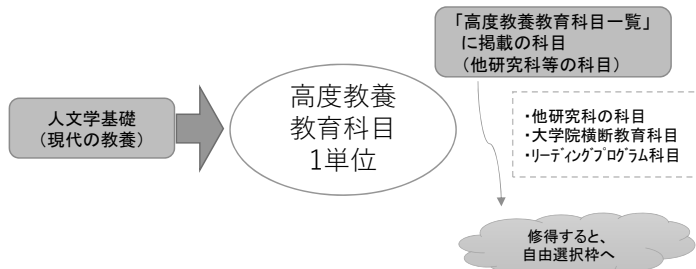
<博士後期課程>

1) 専門教育科目（8単位）

- それぞれの専門分野で開講している博士論文作成演習を2単位以上含み、人文学研究科の科目一覧表に掲載されている科目（専門教育科目）から履修してください。
- ※博士前期課程のように、「高度教養教育科目」や「高度国際性涵養教育科目」の設定はありません。

単位修得方法に関する補足説明

●高度教養教育科目

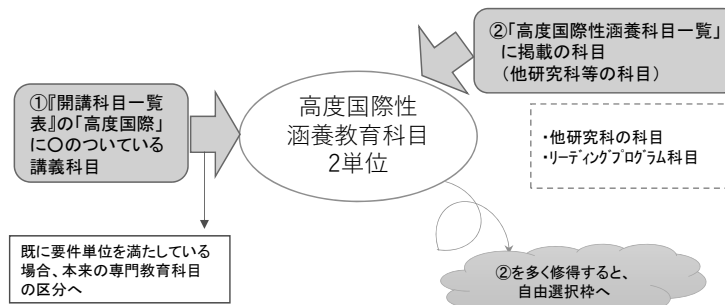


高度教養教育科目となるのは、左図の開講科目です。

「人文学基礎(現代の教養)」は研究科共通の必修科目です。

「高度教養教育科目一覧」は人文学研究科Webページに掲載しています。(シラバスの検索機能、各開講部署のWebページ等でも確認できます。)修得した場合、自由選択枠の単位となります。

●高度国際性涵養教育科目



高度国際性涵養教育科目となるのは、左図の開講科目です。

①『開講科目一覧表』の「高度国際」に○のついている講義科目を、高度国際性涵養教育科目としています。既に要件単位を修得している状態で新たに①の科目を修得した場合は、専門教育科目に充当されます。

②『高度国際性涵養教育科目一覧』に掲載の他研究科等の科目でも要件を満たすことができます。「高度国際性涵養教育科目一覧」は人文学研究科Webページに掲載しています。(シラバスの検索機能、各開講部署のホームページ等でも確認できます。)

既に要件単位を修得している状態で新たに②の科目を修得した場合は、自由選択枠の単位となります。

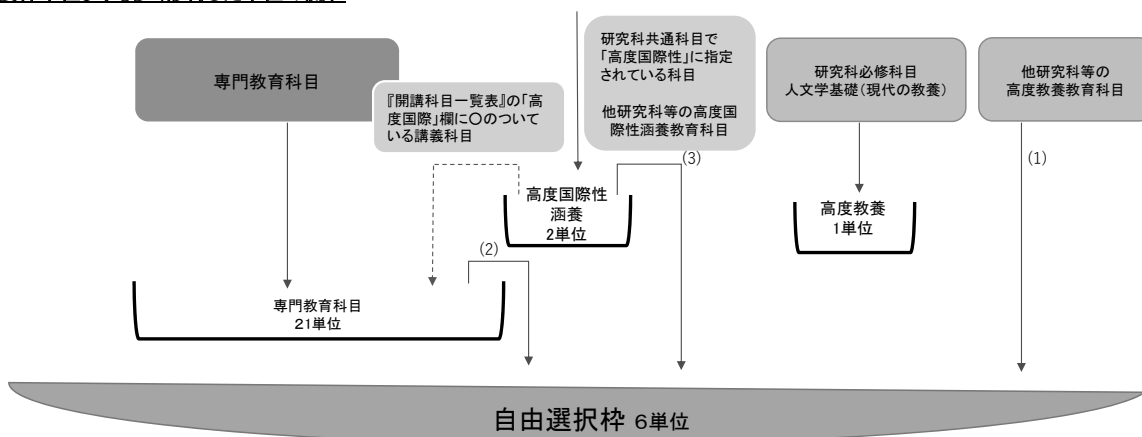
なお、①と②を同じ学期に修得した場合、②を優先して高度国際性涵養教育科目の単位に充当します。

●自由選択枠の単位数について

「各科目区分で必要な単位数(要件単位)を満たしたうえで、全体で30単位を満たすまでの単位数」を指します。

- (1)高度教養教育科目の中で、1単位を超えて修得した単位
 - (2)専門教育科目の中で、21単位を超えて修得した単位
 - (3)他研究科等の高度国際性涵養教育科目の中で、2単位を超えて修得した単位
- で満たす必要があります。

▼要件単位よりも多く修得した単位の流れ



----> 人文学研究科人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻の各コースが開講する「高度国際性」に○がついている科目は、高度国際性涵養教育科目の要件単位(2単位)を既に充足している場合は、専門教育科目となります。

2. 研究指導について

(1) 指導教員について

大学院新生は、各専門分野で決定します。なお、在学中に指導教員を変更する場合には、所定の手続きを行う必要があります。

(2) 相談教員について

修士論文、博士論文の指導に際して、専攻内で適切な教員が見つからない場合、もしくは他専攻の教員のサポートが有用であると判断した場合など、必要に応じて他専攻の教員を相談教員として指導に参加させることができます。

依頼は指導教員を通じて行うこととし、学生から直接要請することはできませんので、希望する教員が見つかった場合、指導教員にご相談ください。

(3) 研究計画書の提出について

大学院学生は、毎学年の始めの指定された日（掲示により指示します）までに、以下のとおり作成してください。詳細については、KOAN掲示板でお知らせします。

1. 研究指導教員と相談の上で研究計画等をまとめた研究計画書（指定様式）を作成してください。
2. 作成した研究計画書は、指導教員および学生がそれぞれ一部ずつ保管してください。
3. 教務係に「研究計画書」を提出してください。

(4) 研究概要報告書の提出について

大学院学生は、毎学年の2月の指定された日（掲示により指示します）までに、当該年度の研究概要報告書を教務係で配布する表紙を添付のうえ研究指導教員に提出してください。ただし、下記の博士後期課程の学生は、研究概要報告書の提出を省略することができます。

- ① 12月期に博士予備論文を提出した学生
- ② 博士論文を提出した学生

3. 修士学位論文について

(1) 修士論文の提出について

修士論文を提出しようとする学生は、あらかじめ当該研究指導教員の承認を得て修士論文題目を定めておき、下記の期間内に修士論文題目をKOANに登録し、修士論文を教務係に提出しなければなりません。また、修士論文題目及び論文の提出期間に休学中の学生は、修士論文題目および論文の提出はできません。提出方法については別途掲示します。

論文を提出できない場合には、論文提出期間内に「論文提出延期願」を提出してください。論文の書式・分量・製本等については、かならず指導教員から指示を受けてください。

提出した論文を取り下げる場合には、提出締め切り日から10日以内に「修士論文取り下げ願」を提出してください。

(2) 修士論文の評価基準について

人文学研究科における修士論文の評価基準が別に定められています。詳細はHPを参照してください。

https://lc.hmt.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/03/jinbungakukenkyuka_ronbunhyouka.pdf

4. 博士予備論文について

博士論文を提出しようとする学生は、博士予備論文を後期課程2年次12月（または、3年次以降の6月・12月）の所定の期日までに、指導教員の承認を得たうえで、教務係に提出してください。なお、指導教員が認める場合に限り、査読つき学術誌等に発表した論文をもって、博士予備論文に代替することができます。

博士予備論文は、400字詰め原稿用紙100枚程度とし、表紙に「論文題目」「所属・学年」「氏名」を明記し、製本を施すかファイル等で綴じたうえで、「博士予備論文題目届」とともに提出してください。（「博士予備論文題目届」には、指導教員の押印が必要です。）

博士学位を申請する学生は、学位申請の9ヶ月以上前に博士予備論文の審査に合格していなければなりません。

博士予備論文の審査は、指導教員及び副指導教員が行い、その報告に基づいて本研究科教授会（以下「教授会」という）が合否を判定し、9ヶ月後以降に学位を申請する資格の可否を決定します。

5. 博士学位論文について

人文学研究科日本学専攻基盤日本学コースにおいて授与する博士の学位は、博士（文学）とします。ただし、専攻分野が学際領域等に係るもので、教授会が適当と認めるときは、博士（学術）の学位を申請することができます。

(1) 在学中の学位申請

在学中に博士論文を提出して課程博士の学位を申請しようとする学生は、以下の条件をすべて満たしていなければなりません。

- ① 博士後期課程に2年6ヶ月を超えて在学していること。
- ② 修了要件単位6単位以上（いずれも博士論文作成演習2単位以上を含む）を修得していること。研究指導を受け、博士論文の構想を届け出ていること。
- ③ 9ヶ月以上前に博士予備論文を提出してその審査に合格していること。

ただし、上記の規定にかかわらず、6単位以上（博士論文作成演習2単位以上を含む）を修得し、研究指導を受け、かつ、優れた研究業績を上げた学生で、教授会が特に認めた場合には、博士論文の構想の届け出及び博士予備論文の提出を行っていなくとも、後期課程に半年を超えて在学していれば、博士論文を提出して学位を申請することができます。ただし、在学期間に関しては、修士課程又は前期課程を2年未満の在学期間で修了した者について

は、後期課程と通算して2年6ヶ月を超えて在学していなければなりません。

学位論文を申請する場合、学生は指導教員を通じて、申請手続き書類一式を受領のうえ、所定の期間に教務係に提出してください。

(2) 休学中の学位申請

休学中の学生は、博士論文・博士予備論文のいずれも提出できません。

ただし、休学の事由が留学等による場合には、博士予備論文に限り提出することができます。この場合、指導教員の説明書きを添付してください。

(3) 退学後の学位申請

単位修得退学とは、後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、博士論文の構想を届け出たうえ退学することをいいます。

単位修得退学者は、退学後2年間の所定の期間に限り、博士予備論文を提出することができます。

学位を申請する単位修得退学者は、学位申請の9ヶ月以上前に博士予備論文の審査に合格していなければなりません。

博士予備論文の審査は、在学時の指導教員及び副指導教員等が行い、その報告に基づいて、教授会が合否を判定し、9ヶ月後以降に学位を申請する資格の可否を決定します。

単位修得退学者は、在学中もしくは退学後に博士予備論文を提出し、その審査に合格していれば、大阪大学大学院学則第13条の規定に基づき、退学後3年間の所定の期間に限り、博士論文を提出して課程博士の学位を申請することができます。

学位申請の際には、在学時の指導教員を通じて、申請に必要な書類等を入手したうえで教務係に提出してください。(必要書類は、博士学位申請手続き必要書類一覧を参照してください。)

その他学位申請に関する手続きについては、教務係に問い合わせてください。

(4) 博士論文の審査基準について

人文学研究科における博士論文の審査基準が別に定められています。詳細はHPを参照してください。

https://lc.hmt.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/03/jinbungakukenyuka_ronbunhyouka.pdf

(参考) 博士後期課程研究指導関係書類・博士学位論文等提出スケジュール

審査手続きについては、掲示等にも注意してください。

4月	「研究計画書」の提出	学生→指導教員・教務係	対象年次：1～3年次
<p>所定の期日までに指導教員と教務係へ「研究計画書」を、提出してください。</p>			
6月	「博士予備論文」の提出	学生→教務係	対象年次：3年次以降
<p>前年度までに「博士予備論文」を提出していない者が対象となります。 博士予備論文題目届とともに提出してください。</p>			
6月	「博士学位論文」の提出	学生→教務係	対象年次：3年次以降
<p>前年度6月までに博士予備論文を提出し、審査に合格した学生が対象となります。 学位申請様式を必要部数用意のうえ、指導教員とともに所定の期日までに教務係へ提出してください。教務係で学位申請論文の受理後、文学研究科研究推進室において、学位申請論文を3週間公開します。その後、審査委員会による審査を行います。</p>			
12月	「博士予備論文」の提出	学生→教務係	対象年次：2年次以降
<p>前年度までに「博士予備論文」を提出していない学生が対象となります。 博士予備論文題目届とともに提出してください。</p>			
12月	「博士学位論文」の提出	学生→教務係	対象年次：3年次以降
<p>前年度12月までに博士予備論文を提出し、審査に合格した学生が対象となります。 学位申請様式を必要部数用意のうえ、指導教員とともに所定の期日までに教務係へ提出してください。教務係で学位申請論文の受理後、人文学研究科研究推進室において、学位申請論文を3週間公開します。その後、審査委員会による審査を行います。</p>			
2月	「研究概要報告書(正・副)」の提出	学生→指導教員	対象年次：1～3年次
<p>所定の期日までに指導教員へ「研究概要報告書」を提出してください。 12月期に「博士予備論文」または「博士学位論文」を提出した学生は、提出不要です。</p>			

博士學位申請手続き必要書類一覧

大阪大学大学院人文学研究科・文学研究科

(課程博士)

令和6年4月現在

大学院学生に関する事項

	必要書類等	様式	形式	部数	提出時期		備 考
					申請時	審査後	
1	学位論文受理願	様式文1-1	紙	1	○		人文学研究科・文学研究科長宛 [論文タイトルに副題がある場合] 下記を原則とします (和文タイトル) ・改行の上、— (全角ダッシュ) を副題の前後に1つつ付す ・書名は『 』で括る (英文タイトル) ・主題と副題を「: (コロン)」でつなぎ改行は行わない ・書名はイタリックで表記する
2	論文目録	様式2	紙	1	○		数量は「1冊」としてください。 印刷公表(予定)年月日等が未定の場合は、以下すべての項目を「未定」としてください。 論文タイトルに副題がある場合の注意点を上記1学位論文受理願の備考欄で確認してください。
			電子データ (Word)	1	○		
3	論文内容の要旨	様式3	紙	2	○		4000字程度を横書きで作成してください。 原則としてタイプ打ち(9ポイント MS明朝体)で作成し、A4版用紙2枚以内で提出してください。 複数枚にわたる場合、左上クリップ止めしてください。 論文タイトルに副題がある場合の注意点を上記1学位論文受理願の備考欄で確認してください。
			電子データ (PDF)	1	○		
4	履歴書	様式4	紙	2	○		日付は、学位記及び証明書等で確認の上、正確に記入してください。 また、外国人申請者は、外国籍用を使用し、各年月日は、必ず西暦で記入してください。
			電子データ (Word)	1	○		
5	業績一覧	任意様式 右記「備考」欄の項目を満たして下さい。	紙	1	○		・著書、学術論文、口頭発表等の題目 ・単著、共著の別 ・発行書、発表雑誌又は発表学会等の名称 ・発行、発表年月日 ・ページ数(単行本の場合は、総ページ数ないし担当ページ数を明記してください。審査対象となる提出論文は、含めないでください。)
6	単位修得退学証明書 [単位修得退学者のみ]		紙	1	○ 対象者のみ		人文学研究科(豊中)教務係にて発行申込手続を行ってください。 (申し込みから発行までに約1週間程度かかります。)
7	主論文		冊子	1	○		閲覧に耐えるよう製本したものを用意して下さい。(簡易製本でかまいませんが、指導教員より指示がある場合はそれに従ってください。) 400字詰め300枚程度を基準としてください。 縦A4版が望ましい。 表紙及び背表紙に論文題目及び学位申請者氏名を必ず記載してください。 審査用に必ず別途必要部数を用意してください。 審査用必要部数は、関係教員に確認してください。 論文タイトルに副題がある場合の注意点を上記1学位論文受理願の備考欄で確認してください。
			電子データ (PDF)	1	○		
8	参考論文			審査員 数分	○ 参考論文がある場合のみ		審査用に必要部数を用意してください。 審査用必要部数は、関係教員に確認してください。
9	博士論文のインターネット公表(大学機関リポジトリ掲載)確認書	様式10	紙	2	○		指導教員と著作権等に関する内容を相談のうえ提出してください。 論文タイトルに副題がある場合の注意点を上記1学位論文受理願の備考欄で確認してください。
			電子データ (Word)	1	○		
10	博士論文のインターネット公表(大学機関リポジトリ掲載)保留事由に係る報告書	様式11	紙	1	○		様式10において「全文の公表の保留希望」を選択した場合は「インターネット公表(大学機関リポジトリ掲載)保留事由に係る報告書(様式11)」を提出してください。
11	学位記記名届	様式文2	紙	1部	○		学位記に記載する氏名や生年月日の表記について確認します。 留学生の方は英文トランスクリプトに記載する氏名も記入してください。
12	誓約書	別紙	紙	1	○		

(注意事項)

1. 教務係に学位申請の際は、必ず関係教員を通じて行ってください。
申請の際は、必ず印鑑を持参してください。
2. 課程博士の学位申請期限は、単位修得退学後3年以内(12月又は6月の所定期間内に限ります。)となります。
3. 電子データはファイル形式を確認し、提出はUSBメモリに入れて持参してください。
4. 提出した電子データの内容に変更が生じた場合は教務係に再提出してください。

6. 長期履修学生制度について

以下の申請資格を満たす大学院生が標準修学年数（博士前期課程：2年、博士後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができるよう「長期履修学生制度」を設けています。

(1) 申請資格

① 定まった職業を有する者

正規雇用・非正規雇用にかかわらず、恒常的に勤務している者、または勤務する予定にある者をいう。なお、恒常的な勤務とは、原則、一事業所において、週30時間程度勤務している者、あるいは勤務すると認められる者とする。ただし、外国人留学生を除きます。

② 出産の予定のある者及び育児又は子の養育を行う必要のある者

出産の予定のある者とは、申請時において妊娠している者をいう。育児又は子の養育を行う必要のある者とは、義務養育終了年度までの子の育児又は養育を行う必要がある者をいう。

③ 介護を行う必要のある者

親族の介護を行う必要があると認められる者をいう。

④ その他、長期に履修することが教育研究上必要と認められる者

心身の障がい、もしくは疾病等により、標準修業年限で修了することが困難であると認められる者、あるいは指導教員（入学前においてはその予定教員）が研究上特に必要であると認めた者をいう。

(2) 申請手続き等について

長期履修制度は、入学時・進学時だけでなく、在学中の年度のはじめから適用することができます。申請手続きにあたっては、指導教員と相談のうえ、教務係が指定する期日（前年度2月頃）までに所定の様式により願い出てください。ただし、長期履修制度申請時に標準修業年数の残りが1年未満である者は申請することができません。

長期履修期間は、在学年限（博士前期課程：4年、博士後期課程：5年）の範囲内で選択することができます。

(3) 長期履修期間の変更等について

長期履修を認められた学生（以下「長期履修学生」という。）が事情により履修期間の短縮を願い出る場合は、前年度の教務係が指定する期日までに願い出なければなりません。ただし、特別な事情がある場合には、指定する期日以外の時期においても履修期間の短縮を願い出ることができます。

(4) 長期履修学生の授業料について

長期履修学生の授業料及び授業料の徴収方法については、大阪大学学生納付金規程の規定によります。

その他、長期履修制度に関する手続きについては、教務係にお問い合わせください。

7. 大阪大学の大学院教育システム

学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム

Double-Wing Academic Architecture

(1) 大学院教育システム構築の背景と目的

現代社会には、SDGsに代表される様々な課題が数多く存在します。こうした複雑な社会課題を解決するには、それぞれのコアとなる専門的知見に加えて、広い視野から課題を多角的に捉え、多様なステークホルダーと柔軟に協働する力が求められます。

このような社会背景を踏まえて、大阪大学では、大学院での学びを皆さん自身がデザインすることができる新しい大学院教育システム「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム” Double-Wing Academic Architecture”（以下「DWAA」という。）」を推進しています。

DWAAの考え方

DWAAは、研究科・専攻等における専門分野の教育（「知の探究」型教育）に加え、専門分野のコアの修得を前提として、新たに「知と知の融合」「社会と知の統合」の二つの方向に教育を広げていく点が特徴です。

知の探究

これまでの学術編成を尊重し専門分野を深め、専門家を育成する教育

従来の学術編成に基づいた研究科の専門分野における深い知識や高い技術を保持する人材を育成する教育です。

知と知の融合

いくつかの異なる学問・研究分野からなる複合領域を学修する教育

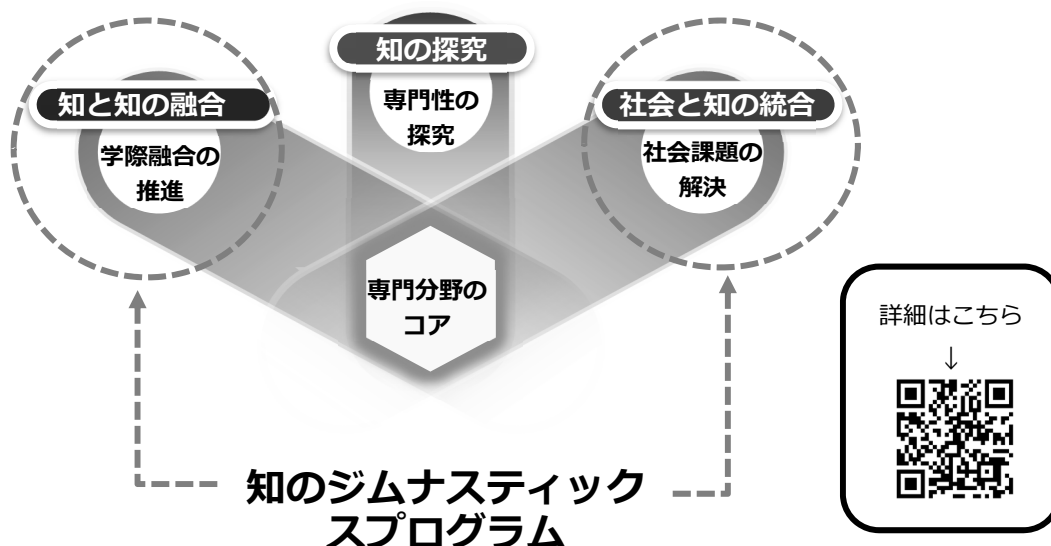
異なる分野にも視野を向け知的地平を広げられる教育を指します。新たな知識や技術の組み合わせを試みる創造的な活動を促進します。

社会と知の統合

社会課題に対する解決に向けての実践的な取り組みを通じて学修する教育

社会の様々なステークホルダーとともに解決すべき課題を発見して解決方法を創造し、さらに社会に実装することができる能力を育成します。授業の中で、社会課題の解決に実践的に取り組む機会を提供し、異なる背景を持った人々と意思疎通を図る能力や社会を変えようとする過程で直面する困難を乗り越える力量を身につけます。授業によっては、学外（社会、企業等）との接点を持った取組み等も含まれます。

学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム (Double-Wing Academic Architecture)



知のジムナスティックプログラムとは

このDWAAの考え方にに基づき、「知と知の融合」「社会と知の統合」の二つの学際領域に分類される高度教養教育の教育プログラムを総称して「知のジムナスティックプログラム」と呼び、専門分野の深化を目指す従来の大学院教育と併せて履修を推進しています。

大阪大学で展開している教育プログラムは以下のとおりです。



(2) 大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて

大阪大学では、大学院教育における高度教養教育の更なる展開に向けて導入された「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム (Double-Wing Academic Architecture, DWAA)」を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」を提供しています。

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムです。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、当該プログラムの修了認定証が交付されます。

なお、2024年度は「大学院副専攻プログラム」23プログラム、「大学院等高度副プログラム」47プログラムが実施されます。

また、「大学院等高度副プログラム」のうち、一部のプログラムは「大学院科目等履修生高度プログラム」として、社会人に対しても提供されています。

各プログラムの詳細については、以下のURLもしくはQRコードからご参照ください。

※大学院の新入生にはプログラムのパンフレットを別途配布します。

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/programs/list/advanced/>



(3) 学際融合教育科目について

本学における横断型教育（学部・研究科の枠を超えた学び）の、より一層の充実を目指して、複眼的視野を涵養するための授業科目として「学際融合教育科目」を設置しています。

学際融合教育科目は、全学の大学院学生に開講していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

※学際融合教育科目は、大学院横断教育科目の科目区分の一つとして開講しています。

詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。

※履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内にKOAN（学務情報システム）から行ってください（<https://koan.osaka-u.ac.jp>）。

※大学院横断教育科目の単位認定についての取り扱いは、研究科によって対応が異なります。修了要件への算入可否については、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口を確認してください。

詳細については、以下のURLもしくはQRコードからご参照ください。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/fukusenkou/gakusai>



（４）コミュニケーションデザイン科目およびCOデザイン科目について

■教育プログラムの目的

大阪大学は、高等教育における新しい教育の目標として〈高度汎用力〉の育成を掲げています。COデザインセンターは人をつなぎ、知識をつなぎながら、ともに創出する力を身につけるための学部・研究科横断型の新しい高度教養・高度汎用力育成プログラムの研究開発と教育にあたっています。

「コミュニケーションデザイン科目」は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして学部生、大学院生を対象に開講されています。

また、「COデザイン科目」は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群として大学院学生を対象に開かれています。

■コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目の修得単位について

コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目が修了要件単位に算入できるか否かについては、各研究科によって取り扱いが異なりますので、履修に際しては、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口には必ず相談してください。

■履修手続方法について

コミュニケーションデザイン科目とCOデザイン科目の履修登録は、全学で統一された

「他部局科目の履修登録期間」内にKOAN（学務情報システム）から行ってください（<https://koan.osaka-u.ac.jp>）。

